

(2) 「グローバル国語」について

<仮 説>

「国語総合」の授業で重視されている「読む」「書く」の言語活動に加えて「話す」「聞く」の実践的な活動を行うことによって、自分の意見を論理立てて他者に説明する過程で言語感覚が磨かれ、分析力や状況に応じた判断力が身につくのではないかと考える。また、他者との対話をとおして、物事を多面的に見る視点が養われ、多様性を受容し協働して問題を解決する力が育まれるのではないかと考える。

<目 的>

「話す・聞く」の領域に特化した日本語による言語活動を行うことで、コミュニケーションや協働を体験的に学ぶ。さらに、物事を客観視して自分の意見をもち、それを論理的に主張すること、また異なる立場や環境にある他者の意見を尊重して自分の意見と発展的にすりあわせ、問題解決に向かっていけるようにすることで、異文化コミュニケーションの土台となる力を養う。

<実施内容および方法> 1単位の授業を各学期とも、ある時期に固めて実施した。

[1学期] …聞き手を意識して自分の意見を表明することの難しさに気づき、物事を客観視するとともに、多角的に物事を追究することの大切さを学ばせた。

[2学期] …1学期は自分の思いを表現し、伝えることだけに終始したが、さらに発展させ、自分の立場の正当性を立証する技術の習得を目指した。様々な情報を収集・選択・活用して客観的に考察し、論理的に表現したり、逆の立場からの意見を想定してそれに対して自己の正当性を立証したりする技術を身に付けることを目標とした。本校の蔵書に加え、奈良県立図書情報館から24冊、橿原市立図書館から40冊借用し、図書館において5時間のグループ学習時間を設けた。

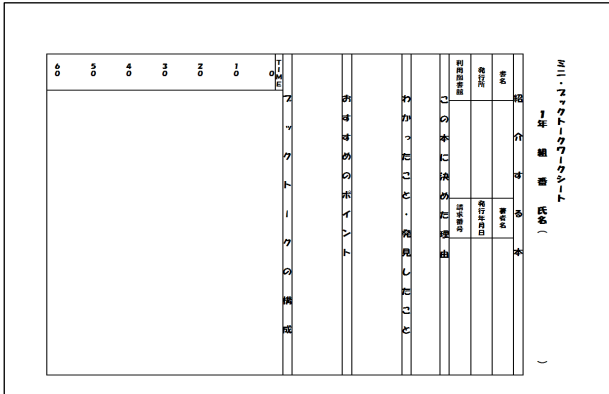
[3学期] …2学期のディベートでテーマとしたものについて、自分の立場を明らかにした上で、その根拠を示しながら文章化した。説得力のある文章を書くため、構成メモの作成、下書き、添削を丁寧に行い、清書した。さらに、清書したものをグループで発表し、質疑応答をしながら、その内容をさらに深めた。

月	時間	学習内容	テーマ（教材）・講師
4	1	ガイダンス ・科目の目標、学習上の留意点、評価のポイント等を理解する。	・年間学習計画
5	3	ブックトーク ・「本の選択理由」「本を読んで気づいたこと」「おすすめのポイント」を1分間で話せるようにまとめる。 ・速度や声の大きさ、態度に注意して話す。 ・関心をもってスピーチを聞き、発見や疑問点を明確に意識する。	国語便覧に掲載されている「主要評論紹介」36冊の中から1冊選択。春休みに、その「要約」と「感想」を書く宿題を課している。
6	1	講演「インタビューの基本」 ・インタビューをするにあたっての必須条件である「事前準備」「コミュニケーション能力」「臨機応変の	野村恵子先生 (本校教員)

		対応」について詳しく知るとともに、実際に「他己紹介」行うにあたっての具体的な方法および注意点を理解する。	
	1	講演「日常における気づきの大切さ」 ・4つの視点（トンボの目、心の目、虫の目、鳥の目）を知る。 ・日常を様々な切り口から考え、問題意識をもつことの大切さを学ぶ。 ・「聞く力」「伝える力」の大切さを学ぶ。	江原健大氏 (朝日新聞社)
	3	他己紹介 ① インタビュー項目を考える。 ② 紹介する友だちに直接インタビューをする。 ③ インタビューの内容を生かして紹介の方向を決める。 ④ 自分が紹介する内容に説得力をもたせるため、第三者にインタビューをする。 ⑤ スピーチのための構成を考える。 ⑥ スピーチメモを作る。 ⑦ 一人2分程度で班別発表をする。評価表に基づいて相互評価をする。 ⑧ 各班の代表者が一人2分程度でクラス発表をする。評価表に基づいて相互評価をするとともに、自己の取組を振り返る。	
10 ・ 11	2	講演「わかりあえないことから」 ・コミュニケーションにおいて大切なこと、異なる立場にある者が対話をしてつながることの難しさや楽しさなどについて学ぶ。	平田オリザ先生 (大阪大学 CO デザインセンター特任教授、東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、京都文教大学客員教授)
	9	ディベート&ディスカッション ①ガイダンス・役割分担 ②～④資料収集・作戦会議 ⑤資料選択・論の組み立て・作戦会議 ⑥論の組み立て・シミュレーション・作戦会議 ⑦～⑨ディベート	「成人年齢 18 歳は妥当か否か」 「死刑制度の是非」 「脳死は人の死か否か」 6 班に分け、各班が上記テーマの「肯定側」または「否定側」をそれぞれ担当する。
1 ・ 2	1	スピーチ ・国語総合での評論「かわいい現象」(四方田犬彦) 学習を受けて、世界に広がる「かわいい現象」についての自分の考えを1分間でスピーチする。	「かわいい現象」(四方田犬彦)
	5	小論文(記述および発表) ①書き方の説明・構成メモ作成	「成人年齢 18 歳は妥当か否か」

	②下書きをする ③相互添削および自己添削をする ④清書をする ⑤グループ発表・質疑応答、小論文の書き方のまとめ	「死刑制度の是非」 「脳死は人の死か否か」
--	--	--------------------------

①ブックトーク



② 講演「インタビューの基本」



『「他己紹介」班別発表 評価表』							
1年組 番 名前 ()							
発表者							
態度							
技術							
内容							
評価合計							

点数評価基準 5点 素晴らしい 4点 優れている 3点 少し改善点あり
 2点 改善点多し 1点 やり直すべき

⑤ 講演「わかりあえないことから」



今日の授業を通じて感じたこと

1. 「あーいっや」の言葉が流行している。これは最近のことだ。
 2. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 3. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 4. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 5. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 6. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 7. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 8. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 9. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 10. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。

今日の授業を通じて感じたこと

1. 「あーいっや」の言葉が流行している。これは最近のことだ。
 2. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 3. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 4. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 5. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 6. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 7. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 8. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 9. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。
 10. 自分たちが思っていることと、他人が思っていることと、違っていることが多い。

① 小論文を書くための「1」方式の手順とポイント

1. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
2. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
3. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
4. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
5. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
6. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定
7. テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

★ テーマの決定

① テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

② テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

③ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

④ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑤ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑥ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑦ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑧ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑨ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑩ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

① テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

② テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

③ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

④ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑤ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑥ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑦ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑧ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑨ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

⑩ テーマの決定 (1) テーマの決定 (2) テーマの決定 (3) テーマの決定

グローバル課題・ディベート小論文 評価

1 表紙・表紙

- ① 表紙文字は正しいか。
- ② わかりやすい文 (漢字、読点、読点、読点、読点) か。
- ③ 適切な漢字・漢文を用いているか。
- ④ 漢字・漢文は適切に用いられているか。
- ⑤ 漢字・漢文は適切に用いられているか。

2 構成

- ① 序論の書き出しは適切に構成されているか。
- ② 本論は文章の展開が適切に構成されているか。
- ③ 段落分けが正しくなされているか、それぞれの段落は完結しているか。
- ④ 段落の役割が適切に構成されているか、それを果たしているか。
- ⑤ 結論は適切に構成されているか。

3 内容

- ① 自分の経験に基づいて書かれていますか。
- ② 自分の意見で書かれていますか、具体的に書かれていますか。
- ③ 感情や意見を述べ、結論が書かれていますか。
- ④ 読者は納得する。
- ⑤ 読者は納得する。

評価基準 各項目①～⑩までの
1. 5点満点
2. 3つ以上を満点とする
3. 2つ以上を満点とする

グローバル課題・ディベート小論文 (評価表) 1年 組

テーマ	立論	論議	表紙	表紙	構成	内容	総合評価	備考	氏名
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									

評価基準 1. 表紙・構成・内容・結論をそれぞれA・B・Cで評価する。
2. 総合評価 (表紙・構成・内容・結論) A B C D E
A B C D E



<成果と課題>

過去5年間の実践内容を踏襲、発展させる形で取組んだ。「他己紹介」、国語総合と関連させた「1分間スピーチ」、「ディベート」からの「小論文」は、新たな試みである。また「インタビュー」の学習は、外部講師ではなくアナウンサー経験がある本校教員が生徒の実態に合わせた具体的な講演内容だった。一方、「ディベート」と平田オリザ氏の講演は継続している。成果は、特に次の4点が挙げられる。

1 「国語総合」との連携による学習の深化

評論「かわいい現象」(四方田犬彦)を国語総合で学習した後、「日本の『かわいい』文化が世界に席巻している現象を、あなたはどのように考えますか」ということについてのスピーチを1分間で行った。スピーチするにあたり、評論「かわいい現象」を何度も読み、筆者の考えを整理した上で自分

の考えを述べようとしていることがうかがい知れ、積極的に作品と向き合い、読みを深めていたと言える。また、ディベートを体験した後のスピーチであったため、根拠を示して具体的に、論理的に自分の考えを述べることができている者が多かった。2学期の「ディベート」では、1学期の国語総合の「羅生門」において、「登場人物の人物像」や「作者について」など4つの課題について研究書等を読みながらグループでレジュメにまとめて発表するという学習をしていたため、多くの文献を読んでグループで話し合う図書館での学習がスムーズに行えた。

2 小論文学習の円滑な導入

「ディベート」学習において、自分の立場の正当性を立証するために、情報を収集・選択し、客観的に考察した上で論理的に説得することの重要性を学んだ。また反対尋問に備え、自分と逆の立場の意見を想定し、それに対する自己の正当性を立証することも学んでいる。このことが、小論文を書くときに陥りやすい知識不足や譲歩構文の欠落、根拠のない思いつきの羅列を回避しようとする姿勢を育んだのではないかと思われる。

3 答えのない問いに向かう姿勢の変革

正答がない問題に対し、正確な知識を拠り所にして、他者と対話しながら合意形成していくことの面白さや重要性を実感し、物事に主体的あるいは協調的に関わろうとする姿勢が育まれつつあると感じる。ディベート学習後の生徒感想文にも「答えが無いのだから仕方がない、どうしようもないと言ってよく諦めていたが、社会にはこのような問いであふれかえっている」「答えを出すまでの道のり、考え方が大切だと感じた」とあった。

4 1学期から3学期への段階的な学習

各学期、「他己紹介」「ディベート」「小論文」を軸に置き、物事を多角的・客観的に見て判断すること、逆の立場を想定しつつ自己の意見の正当性を立証すること、自己の立場を明確にしつつそれを論理的に表現することを、段階的に気づき定着させられるように計画、実践した。また、講演で学んだことが次の活動につながるように生徒にも常に意識させていた。事後報告書には「野村先生に具体的にインタビューの仕方を教わったので、相手から多くの情報を得ることができ、また伝える時の取舍選択の意味が理解できた」「平田先生が言っていたように、意見を言うのではなく、しっかりと伝えられるように意識した」「ディベートを見るのもとても楽しくて、自分が予想している反対意見じゃないものが述べられた時は、こういう考え方、視点があるのかと、自分の考えを広げることができた」「反対尋問でも答弁でも、論理的・科学的な分析力は必要だが、それを身に付けるには、論題についての知識を多く蓄え、グループ内で意見を交換し合うなどして理解を深めべきだと思う」などの言葉もあり、各学習をつなげ学習目標を理解して活動していると思われる。一方、学習活動の継続性および他科目との連携という点で課題が残る。

1 学習活動の継続性

先述の「成果4」で述べたように、段階を経ながら学習目標を設定したが、生徒が自分で不十分であったと認識したものは同じ活動で取り戻そうとしたがる傾向にある。生徒の感想には、「反省点などを改善して、もう一度ディベートをしたい」「次はもっと班の人と話し合って自分の役割をもっと果たせると思うから、もう一度やりたい」というものが多く見られた。昨年度の課題として、放課後等の教員が見えない部分での活動の評価問題が挙げられていたため、教員が活動状況を確認できる授業時間内に準備ができるように、図書館での学習時間を5時間設けた。確かに評価の面では改善されているが、問題点が明確になった状態で再度同じ活動をさせることができれば大きな成長が見られ、またそれを自覚できることは明白である。しかし、そうするには今の設定の倍近くの時間が必要となり、現実的には非常に厳しい。今後さらなる検討が必要である。

2 他科目との連携

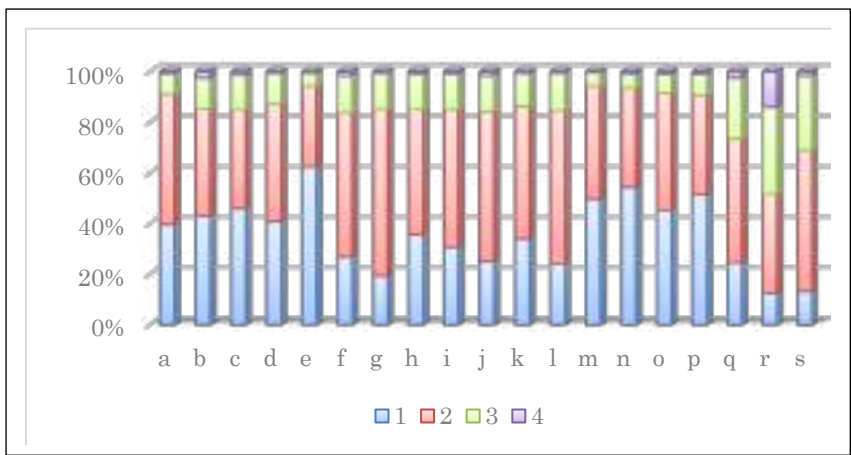
今回、国語総合の現代文分野との連携を試みた。その成果は先述のとおりであり、科目を連携さ

せることにより相乗効果が期待できる。今後、古典分野も含めた連携、および国語以外の科目との連携も視野に入れるべきではないだろうか。

最後に、2月上旬に生徒対象に実施したアンケートおよび結果を掲載する。

*下表のa～sの項目について、「1 そう思う」「2 まあそう思う」「3 あまり思わない」「4 思わない」の4択でアンケートを実施した。

<意欲>	a	積極的に参加した	b	楽しかった	c	達成感を感じた
<位置づけ>	d	高校生活や他の授業に役立つ授業内容だと思う	e	将来の社会生活に役立つ授業内容だと思う		
<論理的思考力・技能>	f	根拠を示して自分の意見を伝えられるようになった	g	相手が言いたいことを正確に聞き取ることができるようになった		
	h	情報を収集する力が身についた	i	情報を取捨選択する力が身についた		
	j	情報を分析する力が身についた	k	物事をいろいろな視点で見られる（考えられる）ようになった		
	l	物事を論理的に考えられるようになった	m	物事をメリットとデメリットの両面から考えられるようになった		
<他者と協働できる力>	n	他者の意見を受け入れられるようになった	o	他者と協力して問題を解決することができるようになった		
	p	他者と協力して問題を解決する意義を実感できた				
<対話力・伝達力>	q	コミュニケーション能力が高まったと感じる	r	人前で話すことに抵抗感がなくなった		
	s	表情や音量、速度、構成などを工夫して話せるようになった				



「1 そう思う」「2 まあそう思う」は、a～pにおいて80%を超えている。論理的思考力について、どのような点が身につき、また身につかなかったかを測るアンケート項目を設けたつもりであったが差が見られなかった。項目のさらなる精選が必要である。q～sについては、他の項目と比べ「3 あまり思わない」「4 思わない」の比率が高くなっている。特に「r」は性格なども関係するため、抵抗を感じつつも「s」の工夫をしながら対話していく力がつけられるような学習の機会を設けていきたい。仮説で述べた、物事を多面的に見る視点や、多様性を受容し協働して問題を解決する力は育まれつつあると考えられる。